

小児急性脳症—ウイルス学的検索

研究協力者 甲野礼作 (国立予防衛生研究所
ウイルス中央検査部)
共同研究者 山崎修道, 井上 栄, 大西英子,
長谷川斐子

目 的:

小児急性脳症の病原に関するウイルス学的検討を行い, その病原を決定する。

方法及び材料:

東京女子医大小児科より送付された倉内例(急性脳炎)の髄液よりのウイルス分離にはサル腎細胞(MK)初代, ヒト胎児肺細胞(HEK)およびMDCK細胞を用いた。

血清は4病日, 10病日採取のものにつきエコー4(E4), エコー7(E-7), コクサッキーA-9, コクサッキーB-3, インフルエンザA及びB, 麻疹, アデノマイコプラズマ・ニューモニエの各抗原を用い補体結合反応微量法で行った。

結 果:

表に示す如く, ウイルス分離はすべて, 陰性, MOCK細胞はインフルエンザAおよびBウイルスを目標として分離実験を行ったものである。

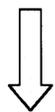
血清反応(補体結合反応)においてコクサッキーB-3抗原に対し, 急性期1:16, 回復期1:8の補体結合抗体価を示した。他は陰性であった。抗体価の上昇はみられなかった。女子医大で行った補体結合反応の成績ではヘルペス・シンプレクス<4, サイトメガロウイルス<4で, 陰性, コクサッキーB群各型とくにB-3, B-5に抗体陽性であった。

氏 名	年 令	性	採取月日	病日	E-4	E-7	CA-9	CB-3	Infl-A	Infl-B	Measles	Adeno.	Myco.
倉内 大	2才	男	9/10	4	<8	<8	<8	16	<8	<8	<8	<8	<8
			14/10	10	<8	<8	<8	8	<8	<8	<8	<8	<8

考 按:

本症の診断名は最初ヘルペス脳炎ということであったが, これは補体結合反応の成績から否定し得る。

コクサッキーB群ウイルスに対し, 一様に補体結合反応が陽性であったが, 上昇はみられなかった。post infectious にReye症候群のようなできごとが起こったことは考え得るかも知れない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的:

小児急性脳症の病原に関するウイルス学的検討を行い, その病原を決定する。

方法及び材料:

東京女子医大小児科より送付された倉内例(急性脳炎)の髄液よりのウイルス分離にはサル腎細胞(MK)初代, ヒト胎児肺細胞(HEK)およびMDCK細胞を用いた。

血清は4病日, 10病日採取のものにつきエコー4(E4), エコー7(E-7), コクサッキーA-9, コクサッキーB-3, インフルエンザA及びB, 麻疹, アデノマイコプラズマ・ニューモニエの各抗原を用い補体結合反応微量法で行った。